

証券コード:5411

株主の皆様へ



第15期中間

2016年4月1日 >>> 9月30日



JFE

JFE ホールディングス 株式会社

JFE Group

社長メッセージ >>



厳しい事業環境のなか、 収益基盤強化を着実に進めます

株主の皆様におかれましては、日ごろからJFEグループへのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

初めに私から2016年度上期の決算の概要や、通期の見通しについてご説明いたします。

代表取締役社長 (CEO)

林田 英治

2016年度上期の業績概要

今年度上期のわが国経済は、企業収益は底堅く推移し、雇用情勢は改善しているものの、個人消費の低迷や、円高の影響による輸出の伸び悩みなど、内外需とも力強さを欠き、景気は足踏み状態が続きました。また、海外経済は新興国経済の下振れリスクや英国のEU離脱決定の影響等により、引き続き不透明感の強い状況にあります。

このような状況のもと鉄鋼事業においては、国内の

鋼材需要の回復は力強さを欠き、また海外の鋼材市況は下げ止まりが見えたものの、アジアにおける鋼材の供給過剰の影響は依然として大きく、販売環境は悪化しました。さらに急激な円高の進行なども加わり、収益改善に継続的に取り組んだものの、244億円の経常損失となりました。

エンジニアリング事業は、環境・エネルギー分野やインフラ構築分野をはじめとする受注済プロジェクトの着実な遂行、コスト削減等による利益確保に努めた結果、76億円の経常利益となりました。

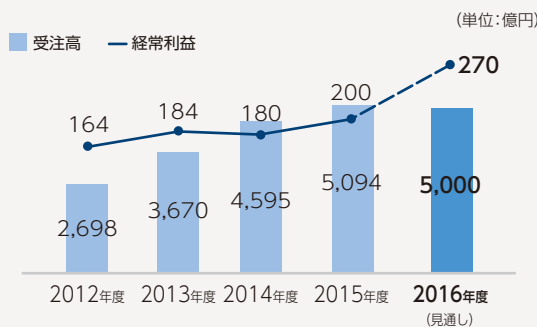
商社事業は国内外における販売単価の下落等により、経常利益は76億円となりました。

以上の結果、グループ連結での上期の経常損失は101億円、親会社株主に帰属する四半期純損失は84億円となり前年同期に比べそれぞれ584億円、383億円悪化しました。

2016年度の業績見通し

2016年度の連結業績は、売上高3兆2,900億円、経常利益300億円、親会社株主に帰属する当期純利益は150億円となり、前年度に比べ減収・減益となる見通しです。

エンジニアリング事業の受注高と経常利益の推移



鉄鋼事業では下期以降、国内では自動車や建設分野の鋼材需要の増加により、緩やかに回復に向かうと想定しています。海外市況は分野によっては一定の回復が見られるものの、エネルギー分野は引き続き停滞しており、依然として不透明な状況にあります。また足下の原料炭価格の急騰により、大幅なコストアップが見込まれるため、鋼材価格の改善に努めておりますが、今年度の損益は150億円の経常損失となる見通しです。厳しい事業環境のなか、新規稼働設備によるコスト削減を早期に実現し、また、第5次中期経営計画にて策定した製造基盤強化、プロダクトミックス改善および海外事業の推進を確実に実行し、収益基盤強化を進めてまいります。

エンジニアリング事業では、再生可能エネルギー関連ビジネスや廃棄物処理プラントなどの環境・エネルギー分野、および橋梁や港湾設備をはじめとするインフラ構築分野で事業のさらなる拡大を目指し、積極的な受注活動を展開しています。受注済プロジェクトは過去最高の水準にあり、それに伴い今年度の経常利益は過去最高の270億円となる見通しです(グラフ参照)。

商社事業では鋼材価格の下落や為替による影響があるものの、海外グループ会社の収益改善等により、

経常利益は前年度を上回る200億円となる見通しです。

株主の皆様へ

当期の中間配当につきましてはこうした現下の厳しい損益状況を踏まえ、誠に遺憾ではございますが、見送ることといたしました。期末の配当については今後の業績動向を見極めつつ検討することとしており、現時点では未定であります。

株主の皆様への利益還元は当社の最も重要な経営課題のひとつであります。今後も収益力を強化し、企業価値の向上に向けて努力してまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年11月
代表取締役社長 (CEO)
林田 英治



	2015年度 通期	2016年度 上期	2016年度 通期見通し
(単位:億円、△はマイナス)			
売上高	34,317	14,995	32,900
経常利益	642	△101	300
親会社株主に帰属する 当期純利益	336	△84	150
総資産	42,348	41,339	—
純資産	18,579	17,847	—
(単位:%、△はマイナス)			
ROS*1	1.9	△0.7	0.9
ROA*2	1.7	△0.2	1.0
ROE*3	1.8	△1.0	0.8
自己資本比率	42.6	41.9	—
D/Eレシオ*4	56.9	57.1	54.6

※1 ROS=経常利益/売上高

※2 ROA=(経常利益+支払利息)/総資産 上期ROA=(経常利益+支払利息)×2/総資産

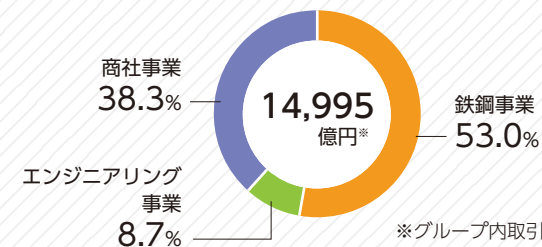
※3 ROE=親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本 上期ROE=親会社株主に帰属する当期純利益×2/自己資本

※4 D/Eレシオ=借入金・社債等残高/自己資本(格付評価上資本性を併せ持つ負債について、格付機関の評価により、資本に算入)

□ 売上高の事業別内訳/増減 (単位:億円、△はマイナス)

	2015年度 通期	2016年度 上期	2016年度 通期見通し
鉄鋼事業	24,451	10,724	22,700
エンジニアリング事業	3,975	1,753	4,500
商社事業	17,564	7,758	16,700
調整額	△11,674	△5,240	△11,000

□ 2016年度上期売上高構成比



※グループ内取引調整額
△34.9%(5,240億円)

□ 経常利益の事業別内訳/増減 (単位:億円、△はマイナス)

	2015年度 通期	2016年度 上期	2016年度 通期見通し
鉄鋼事業	278	△244	△150
エンジニアリング事業	200	76	270
商社事業	157	76	200
調整額	6	△10	△20



鉄鋼事業 JFEスチール株式会社

自動車用鋼板の海外展開

自動車のドアやボンネットなど、高い加工性と強度、錆びにくさなどが求められる部分には、高い技術力が必要な高付加価値品である溶融亜鉛めっき鋼板が使われています。

現在、多くの自動車メーカーが中国や東南アジア、メキシコなど、今後も需要の伸びが見込まれる地域で現地生産を始めています。JFEスチール(株)も、中国とタイ、インドネシアに溶融亜鉛めっき鋼板を製造する工場(以下CGL工場)を展開し、またインドではアライアンス先を通じて、現地生産を行っています。中国とタ

イは順調に生産量を増やしており、またインドネシアのPT. JFE STEEL GALVANIZING INDONESIA (JSGI)も、2016年1月に同国初のCGL工場を稼働させ、9月15日に開所式を行いました。

加えて2016年6月には、アメリカ最大の鉄鋼メーカーであるNucor Corporationとの合併会社[NUCOR-JFE STEEL MEXICO]の設立を決定しました。2019年を目処にメキシコでCGL工場を稼働させる予定です。

これらの伸びゆく市場でCGL工場を展開し、多様化するお客様のニーズに応えることで、さらなる拡販を目指します。

溶融亜鉛めっき鋼板製造設備(CGL)：
CGLとは、鋼板の表面に亜鉛の薄い膜をかぶせることで鋼板の耐腐食性を高めた溶融亜鉛めっき鋼板の製造ラインのことです。JSGIでは、最新鋭の設備と最先端の技術を駆使して自動車用亜鉛めっき鋼板を製造しています。

CGLって何のこと？



JSGIの立ち上げに奮闘したJFEスチール社員の声をお届けします

技術支援・操業指導に従事

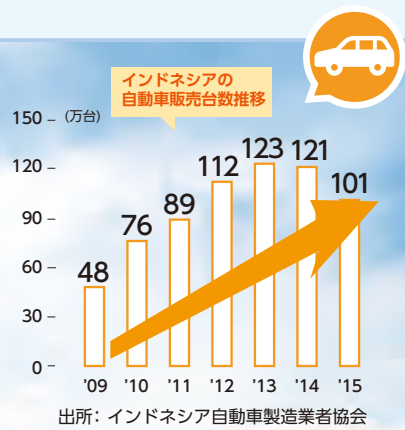
JSGI 製造部 渡邊 幸之助

未経験の現地社員にオペレーターとしての運転操作や安全の指導をしています。月並みですが、心がけたのはとにかくコミュニケーションをとること。自らインドネシア語を話してみることで、一体感が出てきた気がします。海外での立ち上げは大変ですが、自分の提案が実際の設備に反映されていくのを見ると、ものすごく達成感があります。

インドネシアの加速するパワー



インドネシアは、人口は世界第4位の約2億5,000万人、GDPは中国、日本、インド、韓国に次いでアジア第5位、そしてASEANではタイに次ぐ自動車市場です。既に多くの自動車会社が生産・輸出拠点を構えており、今後さらなるマーケットの成長が期待されることから、自動車用高級鋼板の需要がさらに拡大すると見込まれています。



商社事業 JFE商事株式会社

インドネシア伸線加工会社に出資

JFE商事(株)はインドネシアの伸線加工会社であるPT. Mega Pratama Ferindoの一部株式の取得を実施しました。棒線事業では初めての海外投資となり、出資額は300万米ドルで、最新鋭の日本製冷間引抜ラインを新設し、2017年度に稼働開始する予定です。

インドネシアには各国の自動車部品メーカーが進出しており、今後も伸線材需要の伸長が期待されます。今回の出資を通じて、母材となるJFEスチール(株)製線材の供給だけでなく、サプライチェーン全体に参画することで、日系自動車部品メーカーを中心に拡販を目指し、同国内に進出するお客様のニーズに 대응していきます。

現地メーカーとの連携を強化!



周辺設備据付けに尽力



JSGI 設備部
森山 寛樹

私が現地に来て2年の間に様々なトラブルが発生しましたが、全体工程を遅延させないように、いかにその影響を最小限に食い止めるかを思案する日々でした。大変だったのは、やはり言葉です。そんなとき、JSGIの現地社員のみんが手助けしてくれました。彼らがいたからこそここまで来られたと思っています。

操業条件の確立に貢献



JFEスチール(株) スチール研究所 表面処理研究部
田中 稔

私は、JSGIが製造した鋼板の材料特性を評価し、各鋼種について適正な操業条件を確立することに取り組みました。大変だったのは、やはり承認材製造の立ち会いです。製造に立ち会った製品の総距離は約500kmで、東京一大阪間に相当します。少しでも良い品質の製品ができるように操業条件を調整してくれた現地オペレーターには本当に感謝しています。





エンジニアリング事業

JFEエンジニアリング株式会社

バイオマス発電所が完成、 本格商業運転開始



年間約4万4千世帯分の電気



JFEエンジニアリング(株)(以下 JFEエンジ)が中心となり設立した(株)グリーンエナジー津*のバイオマス発電所がJFEエンジ津製作所構内に完成し、本年8月より本格商業運転を開始しました。

この発電所の出力は20.1MWで、年間約158,000MWh(約4万4千世帯分)の電気を作ります。JFEエンジ製の循環流動層ボイラ(CFBボイラ)を採用し、PKS(パームやし殻)や木質チップなどのバイ

オマス燃料を用いて発電します。燃料のPKSはJFE商事(株)からも調達しており、JFEグループの総合力が発揮されています。作られた電気は、FIT(再生可能エネルギー固定価格買取制度)を活用して販売されます。

JFEエンジは今後も発電プラントに関する様々なエンジニアリングサービスを提供するとともに、事業資金の獲得から燃料の安定調達、オペレーション、メンテナンス、電力販売まで事業組成全般に関する提案を行い、事業化を支援することで、再生可能エネルギーの普及促進に貢献していきます。



グリーンエナジー津
バイオマス発電所



森林・里地里山

バイオマス発電所

この発電所の燃料はJFE商事(株)から調達するPKSのほかに、「バイオマス産業都市構想」を掲げる津市のご協力を得て、地域資源である未利用間伐材等を積極的に利用する予定で、地域創生に貢献していきます。

新たな街づくりに貢献する社員の声をお届けします。

person

ここに注目

私は現在、渋谷駅東口の歩道橋架替工事の担当をしています。この歩道橋は、ピーク時には1時間あたり5,000人以上が利用するうえ、下の一般道は1日あたり70,000台以上の車が行き交います。さらに上空には首都高速道路、周辺一帯は再開工事に囲まれているため、架け替えには限られた時間とスペースでの工事が求められます。旧橋の撤去と新橋の架設を段階的に同時並行で行うほか、大ブロック化した部材を夜間に現地架設するなど、人と車の流れを止めることなく工事を進めながら、駅周辺の新たな街づくりに貢献していきます。



渋谷駅東口歩道橋架替工事

現在の渋谷駅東口



完成予想図

スムーズな歩行を促す曲線にデザイン

JFEエンジニアリング(株)
橋梁事業部
改築プロジェクト部 能登 晋也



※会社概要

●所在地:三重県津市雲出鋼管町1番地 ●資本金:1億円 ●JFEエンジニアリング(株)出資比率:35.2% ●事業期間:2016年7月~2036年6月(20年間)

ジャパン マリンユナイテッド 株式会社

5MW浮体式洋上風車「ふくしま浜風」 福島沖に設置

ジャパン マリンユナイテッド(株) (以下 JMU)は、経済産業省の「福島復興・浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業」において、浮体式洋上変電所に続き、このほど5MW風車搭載浮体式洋上風力発電設備を福島沖に設置完了しました。本プロジェクトでは、JMUは浮体部を設計から洋上設置まで担当しました。

洋上風力発電分野では風車の大型化が進んでおり、国内では福島を含む東北、九州、北海道地方などでも、風況条件の良さから設置が有望視されています。JMUは造船で培われた技術力と経験で洋上風力発電のアドバンテージをキープし、積極的にグリーンエネルギーの開発利用に取り組んでいきます。

来年発電開始予定

風車の羽根は
長さ62m、最高
到達点は海面
から150m!!



会社概要 / 株式の現況 (2016年9月30日現在)

名称 (商号)	JFE(ジェイエフイー) ホールディングス株式会社 [英文名称: JFE Holdings, Inc.]
本店所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 電話 03(3597)4321 (代表)
設立	平成14年9月27日
資本金	1,471億円
発行可能株式総数	2,298,000,000株
発行済株式総数	614,438,399株
株主数	238,466名

株主メモ (2016年9月30日現在)

決算期	3月31日
定時株主総会	6月に開催
定時株主総会および 剰余金の配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告の方法	電子公告
【アドレス】	http://www.jfe-holdings.co.jp/

経営体制 (2016年9月30日現在)

◎取締役		◎監査役	
代表取締役社長	林田 英治	監査役(常勤)	黒川 康
代表取締役	柿木 厚司	監査役(常勤)	津村昭太郎
代表取締役	岡田 伸一	監査役(社外)	伊丹 敬之
取締役(社外)	前田 正史	監査役(社外)	大八木成男
取締役(社外)	吉田 政雄		
◎執行役員			
社長	林田 英治	CEO(最高経営責任者)	
副社長	岡田 伸一	CFO(最高財務責任者) 総務部、IR部、財務部の統括、企画部の担当	
専務	寺畑 雅史	総務部の担当	
常務	大木 哲夫	IR部、財務部の担当	

株式のお手続きに関するお知らせ

●単元未満株式の買増・買取制度について

100株に満たない株式(単元未満株式)は市場では売買することはできません。以下の方法にてご所有の単元未満株式を整理することができます。

買増請求 [買い足して単元株(100株)にする場合]



買取請求 [売却して現金化する場合]

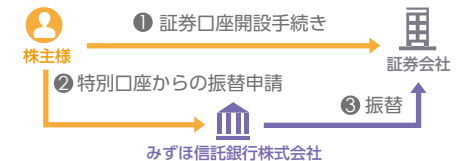


証券会社等に口座を開設されている株主様は、お取引証券会社等にご連絡ください。それ以外の株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部(下記)にご連絡ください。

●特別口座から証券会社等の口座への振替について

特別口座に記録されている株式については、特別口座のままでは売買できません(単元未満株式の当社への買増・買取請求を除く)ので、証券会社に取引口座を開設して、開設された口座に株式を移し替える手続き(振替申請)をお勧めします。

振替申請の手続き



●お問い合わせ先 みずほ信託銀行株式会社証券代行部

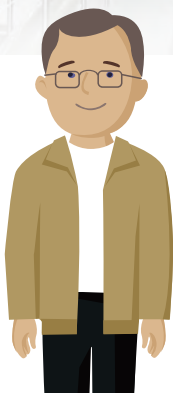
☎ 0120-288-324 (平日9:00~17:00)

工場見学会

ご報告



北海道苫小牧市 (株)Jファーム



参加者様の声

見学会は案内および説明が行き届いており分かりやすくとても勉強になりました。「スマートアグリプラント」を取り入れた農産物生産が普及して農業人口の減少や後継者不足および農地の荒廃を防ぐ有用な方策として進展することを望みます。



2016年10月14日、北海道苫小牧市でJFEエンジニアリング(株)が手掛ける農業生産プラント(株)Jファームにて、株主様向け工場見学会を開催しました。応募者多数のなか、抽選で当選された約80名の株主様とその同伴者様にご参加いただきました。



衛生服を着てエアシャワーを浴びます

天井高く伸びる様々な品種のトマトの栽培方法の説明



数種類のベビーリーフの刈り取りの様子を見学

エネルギー設備

《バイオマスボイラ》
木質チップを燃料とする「バイオマスボイラ」は熱に加えて、排出された燃焼ガスを浄化し得られたCO₂を温室内に供給しています。



バイオマスボイラ棟

《温泉熱設備》
得られる温水の温度に応じてヒートポンプで昇温し、熱源として利用しています。



温泉熱設備

《ガスエンジン設備》天然ガスを燃料とする「トリジェネレーションシステム」で発生した電気・熱・CO₂の3つを温室内に供給します。

社外役員
座談会
を実施



CSR報告書2016を発行

本報告書では、JFEグループが取り組むCSR活動を「マネジメント」「環境」「社会性」の側面からご紹介しています。ぜひご覧ください。

HOME→CSR(社会・環境)→CSR報告書ダウンロード

<http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/index.html> 検索



バーチャル
工場見学



実際に現場にいるかのような臨場感あふれる映像によりバーチャルな製鉄所見学がお持ちのパソコンやスマートフォンで楽しめます。ぜひご覧ください。

HOME→映像紹介「JFEスチールバーチャル工場見学」パネル

<http://www.jfe-movie.com/steel/index.html> 検索

JFE ホールディングス 株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
ホームページアドレス <http://www.jfe-holdings.co.jp/>